

陸上自衛隊の宿营地近くの倉庫に、複数の砲弾が直撃した痕が残っていた。独立から5年の南スーダン。日本は官民で国造りを支援、首都ジュバには国連平和維持活動（PKO）のため陸自部隊が展開するが、治安の悪化で活動は危険と隣り合わせた。日本政府は24日、安全保障関連法に基づく新任務の訓練着手を表明。自衛隊が初めて武器を使う可能性がある。現場のいまを取材した。

## 南スーダンルポ

# 陸自隣り合わせの危険

### ▼憎悪と不信

270人以上が死亡した7月の戦闘から1カ月余りたったジュバ。市街は平穏を取り戻したものの出歩く市民は減り、迷彩服姿の兵士が目立つ。対立民族間の憎悪も広がる。元反政府勢力側の民族に属する無職男性ガイさん(33)は「みんな他人を信じられなくなっている」とこぼした。

南スーダンは2013年末に内戦状態に陥った。それ以前、迷彩服姿の兵士が目立つ。対立民族間の憎悪も広がる。元反政府勢力側の民族に属する無職男性ガイさん(33)は「みんな他人を信じられなくなっている」とこぼした。

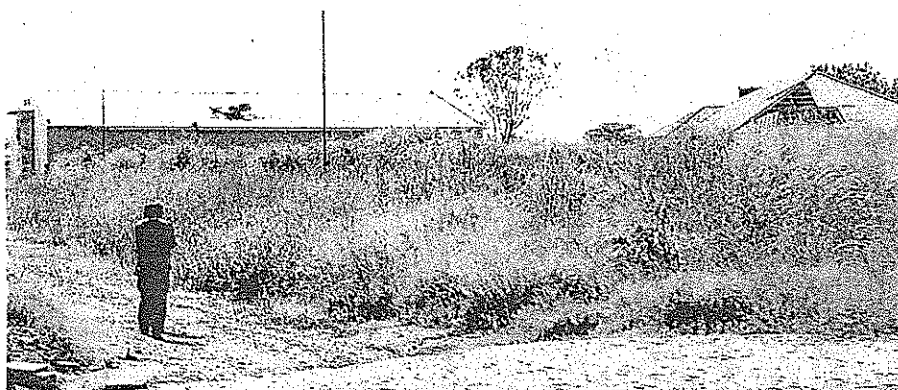
現在、日本の自衛隊が参加する唯一のPKO。日本人の援助関係者らは治安悪化を念頭に「(停戦合意などの)PKO参加原則が維持されていると言えるのか」と疑問の声を漏らす。

現在、日本の自衛隊が参加する唯一のPKO。日本人の援助関係者らは治安悪化を念頭に「(停戦合意などの)PKO参加原則が維持されていると言えるのか」と疑問の声を漏らす。

### ▼予測不可能

戦闘再燃を受け、外務省は退避勧告を出し、日本の援助関係者は再び国外に脱出した。国際協力機構（JICA）が援助の目玉と位置付ける81億円の無償資金によるナイル架橋工事などは中断された。

## 治安悪化、残る砲弾痕



陸上自衛隊の宿营地近くの倉庫は砲弾が当たり、穴が開いていた＝23日、南スーダン・ジュバ

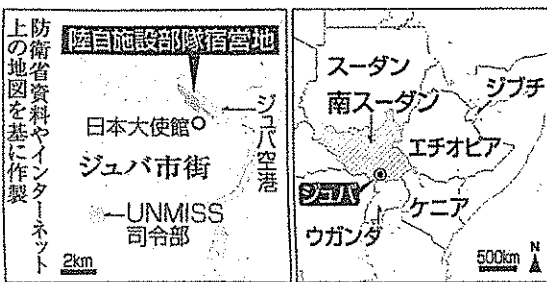
陸上自衛隊施設部隊が国連平和維持活動（PKO）で首都ジュバに展開し、日本の非政府組織（NGO）も教育や保健分野などの支援を実施。ただ13年末に内戦状態となって以降、支援活動の多くが停滞を強いられている。（ジュバ共同）

南スーダンと日本は2011年7月の南スーダン独立時に国家承認。国造りを支援し、アフリカの安定につなげたいとして、14年度までに無償資金協力で約205億円、技術協力で約70億円を援助した。12年1月からはインフラ整備を担う導のアフリカ開発会議（TICAD）が開かれ、安倍晋三首相も出席する。武力紛争やテロに対抗する「社会の安定」が主要課題の一つだ。

1993年に始まり今回で6回目となるTICADの重点は、貧困削減などの支援から日本企業の投資促進へと移ってきた。NGO関係者は「投資重視の裏で見落としがちな難民や紛争被害者への支援を忘れてはならない。支援する側の安全を確保しながら、弱い立場の人々を長期的、多角的に支えることが重要だ」と強調した。

（ジュバ共同）吉田昌樹

国連南スーダン派遣団司令部があるPKO施設の正門付近で作業する陸自隊員。25日、南スーダン・ジュバ



防衛省資料やインターネット上の地図を基に作製